

緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 平成 28 年 11 月 4 日

緩和ケア普及啓発活動についての報告

実施団体	
愛知県厚生農業協同組合連合会 海南病院	
企画名	
「緩和ケアってなあ〜に」	
事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)	
ちらし配布、ポスター掲示、院内メディネット放映	
当日の実施内容について	
日時(期間)	H28年10月3日~10月6日(木)9時30分~12時
実施場所	海南病院「れんけい広場」
参加人数	300人
具体的な実施内容： ・がんとわかったときからはじまる緩和ケアの冊子配布：300部 ・がん相談支援センターご案内パンフレット配布：277部 ・緩和ケア病棟パンフレット配布：289部 ・オレンジバルーンの緩和ケア啓発活動のピンバッジ・ストラップ配布：約130個 ・緩和ケア病棟のアルバム閲覧：3冊準備 ・がん相談の対応	
効果について(アンケートの結果など)	
・忙しい時間帯であったが、多くの人へパンフレットを配布することができた。 ・「れんけい広場」のブースを緩和ケアのブースとして飾ったことで、目につきやすく、興味を持ってもらえた。 ・キャンペーンの声に耳を傾けて下さる患者さんが多かった。 ・今からがんの告知という方が「相談センターを知れてよかった」「今日、がんの手術なんだ。がんになった時から、緩和ケアは必要なんだね。」「今がんの治療をしているよ。今は何ともないけど、先のことを考えると、情報が知れてよかった」「家族ががんで今、入院している。」「緩和ケア病棟の予約をしたところ」「緩和ケアは、テレビを見て知っているよ」「緩和ケアって、何なの?」「がんじゃないけど、知っていることって、大事だよね」「緩和ケアは、まだ必要ないわ」とか色々な声を聞くことができた。「緩和ケアは診断時から始まること」を多くの方に周知できた	

その他報告

- ・今年度初めて、緩和ケア週間に合わせて、4日間のみではあったが、緩和ケアの啓発目的で、活動実施し、約300名の海南病院を利用する方へ緩和ケアのパンフレットを配布した。
- ・「緩和ケア」という言葉は、知っている方が多かったが、「緩和ケア」＝「緩和ケア病棟」＝「死」というイメージをもっている方が多いことがわかった。「がんとわかったときから、緩和ケアがはじまること」の周知が不十分である現状がわかった。
- ・がんと診断された時から海南病院で、どんなサポートができるのかを踏まえた緩和ケアの周知が必要である。
- ・がん診療連携拠点病院として、がんと診断された時からの緩和ケアを実施できるようにしていくためには、緩和ケアセンター委員会が中心となり、海南病院を利用する方だけでなく、海南病院職員に働きかけていく必要がある。

※公式ホームページ（緩和ケア.net）への掲載について

（掲載してもよい ・ 掲載しないでほしい）

- ポスター、チラシなどを作成した場合、添付してください
- 当日の様子(当日配布資料、会場、イベント実施時の写真など)を添付してください



緩和ケアセンター委員会からのお知らせ
「緩和ケアってなあ〜に」

参加費・事前予約不要

緩和ケア週間を利用して、緩和ケアの紹介を行います。
 海南病院のスタッフが、皆さまの質問にお答えします。
 どなたでも参加できます。当日お立ちよりください。

内容

「**がんとわかったときからはじまる緩和ケア**」の紹介

日時

平成28年10月3日(月)～10月6日(木)
 9時30分～12時30分

場所

海南病院「れんけい広場」
 (外来Aブロック前、エスカレーター横)
 オレンジバルーンが目印です。

